

渡辺華山の人生鳥瞰図

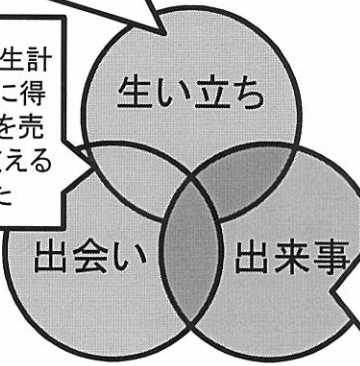
20811145 米田智裕

人生テーマ

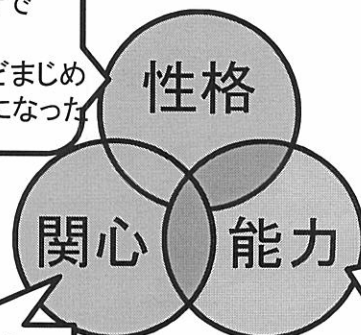
江戸詰(定府)の田原藩士である父・渡辺定通と母・栄の長男として生まれた

幼少期の出来事がきっかけで勉学に励むなどまじめな人間になった

少年の華山は生計を助けるために得意であった絵を売って、生計を支えるようになった



絵の才能は大きく花開くこととなり、20代半ばには画家として著名となり、生活にも苦労せずに住むようになった



幼少期に家計のために描いていた絵がやがて有名な作品として知られていく

価値観

外国事情に関心をもち、蘭学や兵学の研究を始めました。三宅友信に蘭学をすすめ、当時外国事情に精通する第一人者となりました

仕事

ライフデザイン

幼少期の華山が苦しい生活を送ったからか自分の力を後輩たちにも伝えていこうという気持ちがみえた

藩士、学者、画家、外国事情研究、家老などいくつもの仕事をやってのけた

キャリア開発

12才の華山は、日本橋の暴辱から志を立て、徂徠学派の儒学者である鷹見星卓に学びます。後に佐藤一斎、松崎慊堂に学び、幕府の昌平黌にも学籍を置きました。また、当時の学者文人らと交友し、詩文、和歌、俳諧にも通じました。

学習歴

仕事歴

経験歴

藩士、学者、画家、外国事情研究、家老などいくつもの仕事をやってのけた

蟄居中の華山一家の生活を助けるため、作画に専念し、次々と名作を描きました。しかし、その活動により、天保12年(1841)夏の頃から「罪人身を償わず」と悪評が起り、藩主に災いの及ぶ事をおそれた華山は死を決意しました

渡辺華山

田原藩上屋敷に生まれる

人間性

田原藩

- ・若君の相手役
- ・結婚し子どもが生まれる
- ・家老となる

絵

絵師: 白川芝山に入門
金子金陵
谷文晁 } に絵を学ぶ

学問

儒学を

- ・鷹見星臯
- ・佐藤一斉
- ・松崎慊堂

に学ぶ

田原藩のために精進する働きで藩主に対する意識が強い。
また領民を大切に作る気持ちがあり、たくさんの人から認められる

活動暦

藩士として

- ・紀州藩破船流木掠取事件
- ・幕命の新田干拓計画
- ・助郷免除
- ・「報民倉」建設
- ・大飢饉の救済

領民・藩のために働き人望が厚い

画家・学者として

- ・「慎機論」
- ・「鷹見泉石像」
- ・「千山万水図」
- ・「月下鳴機図」
- ・「虫魚帖」
- ・オランダ使節と対談

外国事情に精通し、藩・日本のために「慎機論」
重要文化財などの美術品を多数残す

幕府を批判するものだとされ死刑にされそうになるが、松崎慊堂に救われる

田原藩を思って切腹